

竹工房オンセ

工房オンセは別府市より車で30分ほど入った山里にあります。回りは緑に囲まれ、自然の恵みがいっぱいの中で手作りの伝統工芸品である、ハンドバッグや花籠、盛り皿、ランプ等の作品作りに精を出している職人集団です。大分県は日本一の真竹の生産地です。伸びが良く柔らかい真竹は竹工芸品に適しており、特に細かい細工と強度を要求されるハンドバッグには欠かせないものです。工房オンセの作品には私の名前の雅人から一文字取った、「雅」の銘を彫っています。これは真竹で編んだ国産手作りの作品である証です。現在、全国の有名デパートやギャラリー等で展示会を開催し、たくさんの方々にご愛顧いただいています。また今年も皆様のお近くで展示会などを開催した時はお気軽にお立ち寄り下さい。

2003年、展示会での思い出

去年も、素敵な出会いを頂きました。毎年行っているデパートでは 毎回のように顔を出して下さる常連のお客様、ご家族やお友達を連れて来て下さる方や、一週間の催事期間中に何回も足を運んで下さる方……、ギャラリーでの個展の時は作品だけで、まだお会いした事のないお客様も居られると思いますが、本当にありがとうございました。

神奈川県で若いご夫婦が「こんなに心を動かされた作品と出会うのはめったにない」とポシェットとバッグを買って下さいました。ご主人も優しくそうな眼差しで奥さんを見ていました、落ち着いた素敵なカップルでした。2日ほどして2歳くらいの男の子が背中にポシェットを下げて来て来ました。なんとも言えず可愛らしく、こんな使い方をして頂いたことは新しい発見でした。



2004年デパート催事予定

- 1月14～20 浜松遠鉄百貨店 (九州展) 1月22～27 横浜上大岡京急百貨店 (九州展)
- 1月28～2月3 名古屋松坂屋本店 (九州展) 2月25～3月1 熊本鶴屋 (職人展)
- 4月6～11 岡山天満屋百貨店 (職人展) 4月15～21 京都伊勢丹 (職人展)
- 5月7, 8, 9 横浜高島屋 (特選和食器売場) 5月21, 22, 23 日本橋三越本店 (特選和食器売場)
- 6月 鹿児島三越 (美術サロン) 7月14～19 名古屋松坂屋本店 (職人展)
- 7月22～27 浦和伊勢丹 (職人展) 7月28～8月3 相模原伊勢丹 (大九州展)
- 8月12～17 新宿伊勢丹本店 (大九州展) 8月26～31 松戸伊勢丹 (大九州展)
- 9月中旬 渋谷東急

雅人の一言

20年前、自然に近い生き方を目指して大分県の山の中に、まず住む家を作ることからスタートしました。当初は自給自足できる生活が目標でしたが、副業として始めた竹工芸が面白くなり本業になってしまいました。一人で朝早くから夜遅くまで籠つくりをしていた時、一人づつ弟子が増え工房に、今は作るだけでなく販売もするようになり、生活リズムも大きく変わってきました。

子供も男の子が二人でき長男はもう中学生です。彼等に伝えたいことは“生きる逞しさ”これだけです。どんな環境に置かれても自分で立ち上がる気持ちさえあれば、一から作り出していった時の楽しさ、満足感そんなものが味わえる生き方をしてくれたいと思うこの頃です。

ドイツ・ヴェルツブルグ作品展

11月13日～23日まで、ドイツ中部のロマンティック街道入り口の都市、ヴェルツブルグのシーボルト博物館で「日本の手仕事展」を開催しました。竹工芸、陶芸、藍染、木工、等等。新聞、テレビ、ラジオなどマスコミ関係にも取り上げて頂き、たくさんのお客様を迎えることが出来、大成功でした。シーボルト博物館はじまって以来の来客数だったそうです。

開催直前になって作品の一部の荷物が届かなかったり……細かいトラブルは数え切れないほどありました。準備期間の一年の間に何回も止めようと思う時もありましたが、回りの多くの人に助けられ開催することが出来ました。苦労はしたけれどやってよかったと思います。すべてのことが経験として残り、自信になりました。一番自信になった事は、私のバッグがドイツの方たちにも大好評でご注文をたくさん頂いた事です。特に波網代のパーティーバッグが一番の人気でした。ドイツで自分の作品が認めてもらえたことは本当にありがたい事でした。一昨年はフランスで、去年はドイツでと少しずつ世界に向けての手ごたえを感じています。

中でも特に印象に残った方が居られました。車椅子で来られていたのですが、かなりの時間丁寧に眺めておいででした、その時はそのまま帰られたのですが、夕方になって友人の方が来られて午前中に来ていた車椅子のお客様のことを盛んに私に話すのです。通訳の方を通して、「私は友人から頼まれて来ました。彼女は足が悪くて、なかなか外出する機会がないので、その分、本当に自分の気に入った物を部屋に置いて眺めていたい。是非、このバッグを分けて欲しい」ということでした。残念ながら、飾ってあったバッグは他の方から予約を頂いて居りましたので、後日同じものを送ることになりました。こんな風に求められたときは私たちが物作りをする者にとっては、本当にありがたく嬉しい事です。いつも考えるのですが、私たちは、作品を通じてお客様の人生に関わっていくのです。作品と一緒に作る側の生き様や考え方も編みこんでいくのです、安心して気持ちよく使って頂けるようこれからも製作していこうと思います。



シーボルト博物館



ラングナー館長夫妻と私

大分県宇佐郡安心院町萱籠1167
Tel&Fax 0978-48-2027
Email takae@cronos.ocn.ne.jp

竹工房 オンセ
高江 雅人